年度末報告書（資金分配団体）

● 提　出　日　：　2022 年　　4 月　28 日
● 事　業　名　：　北海道未来社会システム創造事業　～休眠預金活用による道内地域課題の効果的・効率的な解決に向けて
● 資金分配団体　：　一般社団法人北海道総合研究調査会
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　☑有　☐無

①　実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
１－１．子ども・若者、生活困窮者等が「居場所・役割がある」と思える場・機会を設定する。	①本事業を契機として設置する居場所や拠点の数	①4 か所（バーチャルな空間も含む）	2023 年 3 月	25 か所	1
	②各実行団体の活動に参加する子ども・若者、生活困窮者等の人数	②約 1400 名	2023 年 3 月	約 2200 名	1
	③場・拠点で生活している子ども・若者等の QOL、心理的、社会関係の変化	③場・拠点ごとに、参加者の QOL の向上等が見られる	2023 年 3 月	・各実行団体による活動参加者を対象としたアンケート調査・インタビュー調査の結果などから、各活動に対する参加者の満足度は概ね高く、活動による意識変化等が起きている参加者もい	2

				ることから、場・拠点ごとに参加者のQOLの向上等が見られるといえる。	
２－１．支援地域において、都市部の人材が地方で活動する。	①都市と地方で循環する人数	①支援対象地域全体で100人	2023年3月	572人	1

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
３－１．実行団体間の交流が増え、質の高いコミュニケーションが行われる場・機会を設定する。	①常時または定時的な情報のやりとりがある実行団体の数	①6団体	2023年3月	6団体	1
	②交流を通じての実行団体としての気付き	②他団体の参考になる部分を吸収し、自団体の活動促進につなげている	2023年3月	・全実行団体を対象とした活動報告会を開催し、報告会終了後に団体同士の交流時間を設けたところ、団体同士で活発に意見交換する様子が見受けられ、「今後の活動に向けて良い情報を得られた」「今後も協力していきたい」といったコメントがあり、他団体との交流が、自団体の活動促進につながっているといえる。	1

４－１．支援地域内外において、実行団体が、実行団体の取組に理解を示す企業･団体･行政等と交流し、意見交換できる場・機会を設定する。	①実行団体の取組に協力する企業・団体・行政等の数	①１５団体（企業・団体・行政）	2023 年 3 月	46 団体	1
	②他の企業・団体・行政等との交流によって得られたノウハウ・成果	②地域内外の企業・団体・行政等と交流し、自団体の活動の場･知名度が広がる	2023 年 3 月	・活動報告会において、行政や民間企業のほか、選定委員や運営委員にも参加してもらい、各団体の活動内容について各委員からコメントをいただくなど、外部の有識者等と意見交換する貴重な機会となった。 ・地域における活動の認知度が上がり、他地域の団体等から視察の受け入れや研修を開催してほしいという要望を受けるなど、活動の幅が広がっている。また、各団体がメディアの取材を受けることも増え、活動が広く周知されてきている。	1

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.非資金的支援の活動に関する報告
・2021 年 7 月 8 日と 9 月 8 日に、実行団体を対象に「中間評価に向けた研修」を開催した。研修では、各団体から現在の活動状況や活動から見えた成果・課題等についてプレゼンをしてもらい、全実行団体がお互いの進捗を把握し、今後の活動に向けた情報共有をすることができた。 ・2022 年 1 月 20 日には、希望する実行団体を対象に「資金調達の手法を学ぶ研修会」を開催し、本事業終了後を見据えた資金調達の手法について学ぶ機会を設定した。 ・講師には JANPIA 企画広報部・認定ファンドレイザーの山本氏と、これまでに数多くのクラウドファンディングを手掛けている READYFOR 株式会社のリードキュレーター・認定ファンドレイザーの徳永氏をお招きし、さまざまな資金調達の手法について講義いただいた。 ・参加した団体からは、クラウドファンディングを行う際のポイントや募集する際のメッセージの出し方など、具体的な手法に関する質問や意見が多く出され、各団体の自走化に向けて貴重な意見交換ができたといえる。 ・2022 年 3 月 4 日には、全実行団体を対象とした「活動報告会」を開催し、zoom ウェビナーにて広く一般の参加者も募り、各団体からの活動報告と本事業の選定委員・運営委員からの評価コメントをいただく機会を設定した。 ・活動報告会では、各団体に資料を作成してもらい、一般参加者に向けて、活動内容や成果、今後の展望等について発表してもらった。発表後には、参加者から質問を受けたり、委員からコメント・質問を受けるなどし、活発に意見交換を行うことができた。 ・各実行団体にとっては、自分たちの活動を周知し、外部からの評価コメントをいただくことで活動の方向性や今後の課題に向けた対応等を検討する良い機会になったといえる。

6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
・PO2 名により、各団体へ活動の進捗や課題、相談事などを電話やメール、web 会議形式でヒアリングし、適宜アドバイスや情報提供をするなどして伴走支援を行った。 ・コロナ禍においても、感染状況や自治体からの呼びかけを考慮しつつ対面で意見交換や活動現場を訪問する機会を設け、オンラインと対面を柔軟に使い分けることで、PO と各実行団体との関係性が築かれている。

② 広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☑自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） ・特になし 2.広報制作物等 ・「しゃりばり 2022 年 3 月号」（発行・制作：一般社団法人北海道総合研究調査会）にて、「『休眠預金』活用による道内地域課題解決に向けた取組～北海道未来社会システム創造事業について～」と題した特集レポートを掲載（http://www.hit-north.or.jp/charivari/）。 ・活動報告会のチラシを作成（添付資料参照）。 3.報告書等 ・特になし 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） ・2021 年 3 月 4 日、活動報告会を開催。チラシや zoom ウェビナーにおける画面表示においてシンボルマークを使用（添付資料参照）。

④規程類の整備に関する報告

1.　規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☑全て公開した　☐一部未公開　☐未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
2.　変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☑はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1.　社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2.　内部通報制度は整備されていますか。
☑はい　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：☑内部に窓口を設置　☑外部に窓口を設置　☑ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：

5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☑はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☑内部監査を実施　　☐外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

1. 活動の写真（画像データは１枚２MG 以下、3～4 枚程度）
2. 第１回中間評価に向けた研修 実施概要
3. 第２回中間評価に向けた研修 実施概要
4. 実行団体を対象とした「資金調達の手法を学ぶ研修会」実施概要
5. 活動報告会 チラシ
6. 活動報告会 zoom ウェビナー表示画面
7. 活動報告会 委員コメント
8. 運営協議会 実施概要